

三春町「認定こども園基本・実施設計業務委託」

プロポーザル審査委員会 審査講評

1. 審査経過

本プロポーザルは、三春町と福島県建築設計協同組合が締結した「三春町認定こども園基本・実施設計業務委託」の設計担当者を選定するためのものであり、各分野から5名の審査委員による審査委員会が設置され、慎重かつ厳正な審査を行った。

本施設整備であるが、三春町では少子高齢化の進行や低年齢児（0歳から2歳）の保育需要の高まり、地区ごとの就学前教育・保育の需要や受入れ体制の現状を踏まえて、施設の新たな整備や集約化などを検討してきた。令和元年度に「子育て支援施設等の整備に係る考え方」について取りまとめ、現在の岩江幼稚園に替わる施設として認定こども園を整備することとし、令和2年度に「三春町認定こども園整備基本構想」を策定した。

本業務は、この基本構想に基づく施設整備のための基本・実施設計を進めるものであり、発注者からは単なる幼稚園と保育園の機能を一体化しただけのこども園ではなく、乳幼児期の特性と就学に至るまでの連続性も踏まえた総合的な教育・保育施設の設計を求められている。

また、本事業は福島県建築設計協同組合の組合員を対象にプロポーザル方式の設計提案を行うものであり、高低差のある約6,800㎡の敷地にS造又はW造平屋建ての園舎（床面積1,800㎡程度：定員数約180名）を整備することとしている。

7/29（木）に三春町役場3階議場で標記プロポーザル第一次審査会を開催した。審査に先立ち11時からの審査委員会では第一次審査の進め方について審議した。はじめに応募のあった7者の技術提案書が失格要件に該当しないことを確認した。次に、コロナ禍の中ではあるが傍聴者数を制限した上で公開審査とすること、全応募者の提案評価を行うこと、評価は総合評価で行うこと、第二次審査対象者（ヒアリング要請者）を選定すること、選定は投票を参考に行うことなどを確認した。

その後、ヒアリング要請者の選定作業に入り、各審査員無記名で1人あたり3者の投票を行った。その結果、得票上位5者（5票：受付番号⑥、4票：受付番号⑤、3票：受付番号③、2票：受付番号④、1票：受付番号②）をヒアリング要請者として選定した。また、前面道路及び敷地に高低差（約10m）があることから、ヒアリング要請者全員に追加資料として配置図（現況高&計画高）と縦断図の提出を求めた。

8/9（月）に福島市のコラッセふくしま5階研修室で第二次審査会を開催した。審査に先立ち11時から二次審査の進め方等について審議した。ヒアリングは1者25分（説明10分、質疑15分）で進めること、5者ヒアリング終了後の選定作業はヒアリング結果の評価

や絞込み投票結果を参考に意見交換を行うこと、必要に応じ再投票を行うなどして最優秀者等を選定することを確認した。なお、前回同様、第二次審査も公開で行うこととした。

引き続き 12 時 30 分より第二次審査を行った。プロジェクターを使っての提案者説明の後、第一次審査で意見交換を行った点や追加資料を中心にそれぞれの審査員の立場からの質疑応答を行った。

その後の選定作業では、ヒアリング要請者に選定された 5 者の提案について再度評価を行った上で、審査員無記名で 2 者の投票を行った。その結果、受付番号⑥が 5 票、受付番号⑤番が 4 票、受付番号④番が 1 票となった。投票結果が 2 者で僅差となったことから、委員長裁定で再度、決戦投票を行うこととした。投票方式は受付番号⑤、⑥の 2 者を対象に 1 者投票とした。その結果、受付番号⑥番が 4 票、受付番号⑤番が 1 票となり、全会一致で 4 票を獲得した受付番号⑥番を最優秀提案者に、1 票を獲得した受付番号⑤番を優秀提案者に選定した。

2. 審査結果

最優秀提案者（受付番号⑥）：(有)辺見設計

優秀提案者（受付番号⑤）：(株)白井設計

3. 審査委員会の構成

審査委員長：長澤 悟（東洋大学：名誉教授）

審査委員：小林 徹（郡山女子大学短期大学部：教授）

審査委員：市岡 綾子（日本大学工学部：専任講師）

審査委員：新野美希子（三春町：北保育所長）

審査委員：新野 恭朗（三春町：建設課長）

4. 講評

園地は三春町が進めた教育改革のスタートとなった岩江小学校に隣接し、子育て支援環境の充実した地区にある。計画敷地は、南下がりの 4 m のレベル差がある土地を 3 段に造成したものであり、その先には緑しか見えず、また東側の斜面も緑に覆われている。審査においては、この緑豊かで変化のある敷地条件に対し、レベル差を見極めた無理のない造成計画により、子どもたちの成長の場として内外が連続した豊かな空間づくりをいかに実現しているか、また、教職員が働きやすい保育環境、安全な子供の受け渡し、子育て支援施設と駐車場の関係、前面道路に対する景観等について議論した。併せて、提案を求めた課題に対する理解度と本計画ならではの提案になっているか、木材の活用、建築・造成コスト等について比較検討し、さらに、質疑応答を通して、説明のわかりやすさやそれを通じた信頼感等について総合的に評価を行った。

(受付番号⑥：最優秀提案者)

敷地のレベル差に対し、切り盛りを調整することにより、年齢別の保育室棟をフィンガープラン形式で1 m 差の階段状に配置し、内外が連続した保育環境を作るとともに、各棟を結ぶ南北の中心軸は、途中の階段・スロープと絡めてデンや絵本コーナーを設けて変化のある交流空間としている。その両端に、木造架構の特色ある屋根形状の遊戯室と子育て施設を対となるように配置し、保育室の切妻屋根や全体を結ぶ変化のある屋根の組み合わせが印象的な景観を生み出している。

各保育室の構成、子育て支援エリアの配置等、保育環境について具体的なイメージをもとに提案が行われており、雨水排水計画や木造化のための配慮等を含め、総合的によく考えられた提案として最も高い評価を得た。

なお、駐車場のレベルについて南側隣地とのレベル差を抑えること、縦動線を一部ブリッジとして掘り下げ通路は、今後検討の余地がある。

(受付番号⑤：優秀提案者)

敷地のレベル差に対して大きく盛土して(最大4 m)建物地盤面を確保した上、園舎の配置を行っている。園舎は0～2歳保育室と3～5歳の保育室を、中庭を挟んで一体感が感じられるように配置し、それを職員室・子育て支援の棟で結ぶ構成で、保育室棟にはそれぞれ落ち着いた中庭、開けた園庭、東斜面の学びの森につながるという、内外が一体となった空間配置は評価される。内部も担当制保育、時間による活動形態の変化、多様な遊びに対して様々な空間が連続的に配置された変化のある保育空間となっており、密度の高い提案である。子どもの安全でスムーズな受け渡しや子育て支援室への動線、建物敷地の造成量の大きさ等にやや難があり、ヒアリングでの説明や質疑応答が明快でなかった点が惜まれる。

(受付番号②：ヒアリング対象者)

こども園のとらえ方について着眼点は評価されたが、記述がアイデアレベルに止まっており、具体化する提案にまで煮詰まっていない印象があった。地盤レベルの違う3～5歳児の保育室棟が遊戯室を抱えるようにスロープで結ばれる構成は発想としては面白かったが、園庭との連続性がないことやスケールとして納まっていないなど、0～2歳保育室・管理諸室ゾーンに比べ、3～5歳・遊戯室ゾーンの検討密度が不揃いで、不明解であるのは残念である。地盤レベルの設定についても隣地とのレベル差等、検討が不十分である。

(受付番号③：ヒアリング対象者)

敷地のレベル差を読み取り、切り盛りのバランスをとりながら、園庭と園舎を同一レベルにし、切土部分に建物を配置している点は評価できる。一方、北側駐車場から2階レベルに入るアプローチは斬新だが、空間が窮屈で死角となっており、屋上広場もメンテナンス等にやや難がある。内外を含めた保育空間、職員室、子育て支援施設のとらえ方等、園舎そのも

のについての提案が一般的で、子供の受け渡し、子育て支援ゾーンの動線等については疑問が残った。課題4，5についても一般的な記述に止まっている。

(受付番号④：ヒアリング対象者)

0～2歳保育室、3～5歳保育室、遊戯室、管理諸室等を、棟として明確にゾーニングし、南北軸の縦動線で結んだ単純明快な平面配置であり、説明や応答も的確で信頼感があった。一方、提案が一般的な記述に止まり、敷地のレベル差や保育の考え方等に対し、本計画ならではの特色という点で物足りなさが残った。園舎の床レベルが同じなのは評価できるが、敷地のレベル差に対して、全体を平らに土盛りするため造成量が多く、またその結果として園庭が園舎より4m低くなって保育室との連続性がないのは問題である。

おわりに

最後に、本プロポーザルに積極的にご参加下さり、多くの貴重なご提案を頂いた各応募者の皆様には、審査委員会一同、深く敬意と感謝を申し上げます。

(審査委員長 長澤 悟)